

## と畜検査で発見された慢性型豚丹毒と生ワクチンの関連

大野祐太<sup>1)†</sup> 山崎康司<sup>2)</sup> 葛西直人<sup>2)</sup> 落合崇浩<sup>1)</sup> 池田徹也<sup>1)</sup>

1) 北海道立衛生研究所 (〒060-0819 札幌市北区北19条西12丁目)

2) 北海道日高食肉衛生検査所 (〒059-2418 新冠郡新冠町西泊津77-5)

(2022年12月22日受付・2023年4月20日受理・2023年8月5日公開)



本文はこちら  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/76/8/76\\_e187/\\_article/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/76/8/76_e187/_article/-char/ja)

### 要 約

2017年から2020年にかけて、北海道内の3つの農場からと畜場に搬入された豚において関節炎型豚丹毒の発生が多く認められたため、本研究では、各症例で分離された豚丹毒菌株60株が野生株かワクチン株かを調査した。血清型別PCR法、*spaA*の配列比較、一塩基変異を利用したワクチン株判定PCR法では58株がワクチン株と同じ性状を示した。また、そのうちの22株を全ゲノム解析し、すべてがワクチン由来であると明らかになった。ワクチンを接種しているにもかかわらず豚丹毒の発生がみられる農場では、ワクチン由来の発症も想定しながら防疫計画を検討する必要がある。——キーワード：小金井株、生ワクチン、豚丹毒、全ゲノム解析。

-----日獣会誌 76, e187～e192 (2023)